



裾野市「カーボンニュートラルシティ」宣言

気候変動は、私たち一人ひとり、この星に生きるすべての生き物にとって避けることのできない、喫緊の課題です。

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界規模で、自然災害が頻発、激甚化しています。

こうした気候変動は、私たちの生命や財産をおびやかすだけでなく、自然環境や生態系への悪影響など、もはや人類だけでなく、全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言うべき、極めて深刻な事態となっています。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。

さらに2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い、1.5℃に抑えるためには、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることが必要」とされています。

富士、愛鷹、箱根山麓に位置し、「富士山のすその水・緑・人を共に育てるまち」を環境像に掲げる裾野市は、国際社会の一員として、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラルシティ」の実現に、市民や事業者と一丸となって挑戦します。

令和3年10月5日

裾野市長 高村 謙二

